

会議結果まとめ

京丹波町住民自治組織によるまちづくり検討委員会 第13回会議

日時 平成19年1月22日午後7時30分
場所 京丹波町役場議場
欠席 なし

1 開会

2 委員長あいさつ

1月9日に第1回会議を開催して以来、約1年間、ゼロからのスタートということでみなさんにはたくさんのご意見をいただき、ようやく報告をまとめることができた。本日は、町長との懇談の時間を設けているので活発なご発言をお願いしたい。

3 住民自治組織によるまちづくりについての検討結果報告

【住民自治組織によるまちづくりについて（報告書）を町長に提出】

4 町長あいさつ

先ほど、住民自治組織によるまちづくりの今後のあり方について報告を受けたが、委員の皆様には新たなまちづくりのあり方という未知の部分について、毎月の会議でいろんな角度から議論を深めていただき、深く感謝申し上げる次第である。

これからのまちづくりは行政主導ではなく、いかに町民と行政が一体となってまちづくりに取り組むことができるか、その中で特色のある方向を見出すことができるか、そのことが大事な要素だと考えている。

少子高齢化、三位一体の改革など、さまざまな時代背景により情勢は大きく変化しており、最近では、限界集落、さらには今後5年から10年で消滅していく集落が全国に2,600を超えるのではないかという状況が問題視されている。本町は、比較的都市圏に近い位置にあり、また、京都縦貫自動車道やJR複線化などのインフラ整備が進むなど条件的には恵まれた地域にあると思うが、危機感を持って、人口減少、過疎化という大きな課題を乗り越え、地域のみなさんで今後のまちの姿を描き、町民一人ひとりが役割を担い希望に満ちあふれたまちづくりを進めていくことが重要である。また、限られた財源を住民合意の中で選択しながらどう取り組んでいくのか、そのことがこの町の課題であると考えている。

今回、報告を受け、いよいよ新しいまちづくりの仕組みづくりに入っていくところであるが、この報告をもとに今後のまちづくりの方針をまとめ上げ、支援体制の確立、さらには、住民と行政が一体となれるような体制を早く作り上げていきたい。また、本町の総合計画基本構想及び基本計画の策定が整い、現在は実施計画を策定中で、すぐさま20年度の予算編成に入る。基本的には基本計画、実施計画に沿った形で予算編成をすることとなるが、あれもこれもということには到底いかず、より効率性の高い行政運営をしていきたいと考えている。そういったことを十分肝に銘じながら、この報告に沿いながら方針を立てて予算に具体的に盛り込み、推進体制を確立していきたい。

このあとの懇談では、今まで、12回にわたる議論振り返り、苦労話であるとか、今後のまちづくりに期待する部分をお話いただければうれしい。

最後に、約1年間のご苦勞に深甚なる敬意を表しお礼の言葉としたい。

5 町長との懇談

委員…… 人口減少、高齢化の中で10年後にはこのまちがどうなっていくのかと考えると不安を抱くところである。人を増やしていかないと魅力あるまちづくりは難しい。京丹波町は子育てに力を注いでいるとか、教育に力を注いでいるとか、そういった魅力あるまちづくりを進めていくことが重要である。また、過疎地、限界集落を抱えた市町村が1つの力にまとまって国に要望されるようである。非常に重要なことで、そういう取り組みを是非ともお願いしたい。

今回の検討委員会では、私自身勉強になった。自分たちのまちをどう魅力あるものにしていくのかということであると思う。私の地元の地域に振興会が組織されているが、地域内の組織がそれぞれは機能しているが、地域内で連携が取れていないというが見受けられ、さらに発展していく必要があると感じた。

町長…… アドバイザーの宗田先生の話にもあったが、今後30年後には人口が半減するのではないかということについて、みなさんで真剣に考え、危機感を持って、今すべきことを実践し、その中で、若者が定住するような施策を講じていくことも重要である。

また、過疎地の結束をというお話であるが、綾部市長さんが発起人となって11月30日に全国水源の里連絡協議会を設立されようとしており本町も参画する。そうした自治体が連携を強め、過疎地への支援対策等を講じていただくよう国に働きかけを行っていきたい。

委員…… 1年間に及ぶ検討は非常に勉強になった。良い方向が出せたと思っている。進めていく上で難しいのは、町民の意識がバラバラであることである。町民一人ひとりにまちづくりについて高い意識を持っていただくことが重要であるが、地域によっては危機意識の差が大きい。地域で振興会を組織したとき、地域内の役職が増えて負担ばかりが増えるといったことがないように組織化を進めていくべきである。

先ほど企業誘致の話もあったが、地域と企業が良好に共存共栄をしていくことが求められる。地域に協力的でない企業となると地元も不安であり、そうならないためにも環境条例等環境に対する規制を厳しくしていただきたい。

委員…… この委員会で検討してきたのは、住みよいまちを実現していくための住民自治組織である。互いの住民がこの先10年20年あるいは30年先のことを考えて、ここで過ごす喜びを感じることができる社会環境をどうつくるのかということであると思う。このことが実現して初めて、この検討委員会が考えてきたことが息づいたということになる。そうなれば、全国的にも京丹波町は注目されるのであろう。今後、行政と町民とがいっしょになってまちづくりを行っていくということであれば、協働の原則でもある「評価・検証」ということをおろそかにせずやっていただきたい。

町長…… 宗田先生のお話にもあったが、転入者、都市部での生活を経験した人が増えてきており、町内でも約半数がそういった方々がおられる。このことは、新しい考え方が生まれてきているということである。今までの地域のしくみが成り立たなくなってきたということもあるが、新たな地域の捉え方、しくみを作っていかなければならないときにきているのではないか。また、20年前、30年前と比べて地域で話し合う場が減ってきているのではないかと思う。地域みんなで喜びを感じるという場が不足している。今回の取りまとめの報告をもとに、地域づくりのあり方を構築していきたい。

企業誘致に係る環境基準等についても、現行では比較的厳しいものとなっており、企業側からは基準を緩和していただければという話もお聞きする。しかし、誘致をするがために基準をいたずらに下げるとことはまちの大切なものを捨てていくことにもなる。現状の厳しい状況の中で競争をしていかなければならない。

総合計画の中で実施計画の策定を進めているが、評価と検証を繰り返しながら効果を見極めていくことが大事である。

委員…… 今回の検討は、行政に頼ってきた公益の部分を地域がどのように担っていくかということについての検討であったと考える。その財源を地域独自でということはなかなか難しいので、町からの支援制度として、例えば町民税の1%分を公益を担う団体に助成するというのをすれば、税金の用途も明確になり、活動に関して関心を持ってもらえるのではないかと思う。

委員…… 既存組織の役員をしているが、その立場として興味があるのは、来年度から財政支援をどうされていくのかということである。京都府の事業である地域力再生事業という支援制度もあるので、そのこととも整合性を図りながら町の支援制度を設けていただきたい。限界集落という話も出ているが、地域によっては集落を合併するなどして、存続する集落にしていくということも必要になってくるのではないか。

この委員会の取り組みは広報等によって知らされているが、早く町政懇談会を開催していただき、趣旨を町民に広く知っていただけるような周知を行っていただきたい。

町長…… 財政的な支援のあり方については、ご意見があったように、税の使い道を明らかにしていくことが重要である。自分たちの納めた税がまちづくりにどう生かされたかという透明度を上げることが重要であり、また、開かれた行政の展開が今求められているので検討していきたい。

地域によって組織化が動き出せるところやそうでないところも出てくるかもしれないが、地域の足並みをそろえてから支援するというのではなく、率先して活動をしていただく地域に対して積極的に支援をしていきたいと考えている。19年度中に、今回の報告をもとにまちづくりの指針を策定する予定であるので、指針の中で支援のあり方等、具体的にお示しした上で、新たなまちづくりを推進していきたい。

委員…… 高原地区も広い範囲になっており、上豊田、豊田、富田は比較的近くにあるが、実勢区については少し離れている。実勢の状況を考えれば、みのりが丘と夕日が丘と連携を取って組織化を図るということも一つの方向ではないかと考えている。また、行政のほうで早く町民に対して説明等をしていただき、地域において推進できる体制を作っていただきたい。

委員…… 地域では、すでに話を持ちかけているが、詳しいことはなかなか説明できないので、行政のほうで説明等積極的に地域に入っていただきたい。

私の地域は、須知地区で人口が多いところである。その中の一部で農業関係の組織ができてるように、須知地区の中でも西部地区と東部地区というように分かれて検討するという可能性もある。

委員…… 地域内で活動する子ども会、婦人会、老人会、消防などそれぞれの活動は充実しているが、地域において連携ということではうまく取れていないように思う。行政に対しての要望になるが、住民自治組織の組織化にあっては、地域にあるあらゆる組織に呼びかけをしていただいて、組織化の必要性等の説明をいただきたい。

町長…… 新たなまちづくりをどう進めていくのかということをも十分に説明しながら推進していくということが必要である。19年度残り3月までの間に指針としてお示しし、地域には集会等に職員が加わりまちづくりの趣旨等を説明する体制を取っていきたい。最初の立ち上

げ段階が非常に重要であり、その際の行政の役割も重要である。町全体で取り組んでいくには職員が認識を新たにしていくということがキーポイントになるので職員研修を十分に行っていきたい。一度、地域の人たちで地域について話し合いを持っていただき、そのことが大きな輪になり、結果的に組織化につながっていくということになればと思っている。

委員…… これからの私たちの役目として、地域の会合に出席していかなければと思っている。できるだけ早期に地域に対して説明していただける機会を設けていただきたい。

地元では、小学校の統合により廃校となった校舎があるが、管理ができていない状況にある。住民自治組織ができればそういった施設の管理をしていければと考えている。組織化と平行して、町施設の有効活用ということも検討いただきたい。

委員…… 地域の絆が薄くなってきている。また、高齢化等により担い手が不足し田畑が荒れてきており、今後の地域を考えると不安である。その中で、私の区の中で「村づくりの会」を立ち上げ、魅力ある地域づくりを実践している。その活動の中で感じたことであるが、共通の目的となるキーワードを地域で共有することが重要である。

少子高齢化という現状があるが、少子化ということに対して重点的に対策を講じていただきたい。若い人が住んでいながら結婚できないということもあるので、そういったことに対しての対策を講じていただきたい。

都市との交流を行っていくことで地域に活気が生まれる。そういった交流の拠点づくりを進めていくことが重要である。

町長…… 町施設の有効活用については、これからの地域の発展につながっていくものである。振興会を立ち上げる中で拠点となる施設も必要になってくるので検討していきたい。地域が思いを共有し、地域づくりを行っていくということが重要なことであると考えている。また、都市との交流ということも地域にとって重要な取り組みになってくると考える。

少子化については、国のほうでも対策を考えていただいているが、町独自の支援についても考えていきたい。

私どもも努力をしていくので、さまざまな角度から町民の皆様の知恵を結集していただいでよろしく願いたい。

6 その他

7 閉会

副委員長… 懇談では、それぞれ委員の思いを出していただいたと思っている。また、町長からもご回答をいただいた。これからまちづくりを推進していく上で大変貴重なご意見をいただいたので非常にありがたく思っている。

本日、無事、報告書を提出することができた。委員としての役目は終えたが、これからの地域で組織化に向けた検討を行っていく上で、私たちに課せられた責任もあるので、それぞれの地域においてご尽力いただくようよろしく願いたい。